

致死性心室性不整脈の理解と制御法の確立

金沢医科大学医学部 津元 国親

目的 心室性致死性不整脈の発症のきっかけとなる「撃発活動」の形成機序を明らかにし、発生を予測・予防する方法論の開発を目的とする。

内容 交感神経緊張に伴う心拍数の急増を刺激頻度の急変と模す。この刺激頻度の断続変化が不整脈誘発にどのように影響するかを検討した。

結果 EAD誘発領域を伴う心室組織では、EAD誘発領域に起因した不均質性が刺激毎に増強され、リエントリー性旋回興奮波（頻脈性不整脈の実体）が生成されることを見出した。

利用した計算機 SQUID 汎用CPUノード群
ノード時間 2,982 時間
SQUID points 759.5

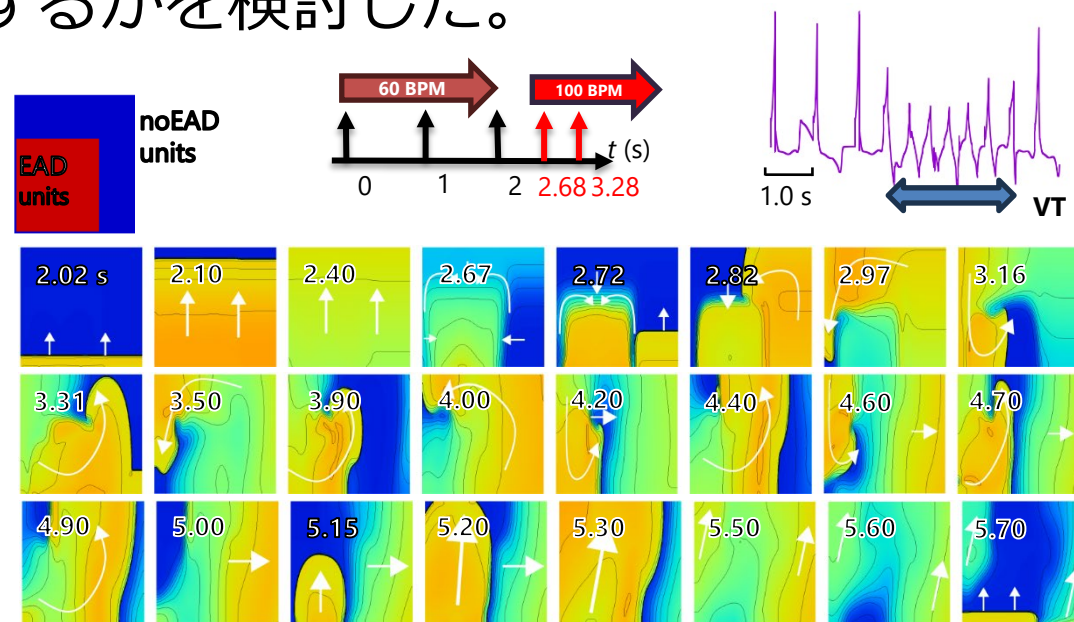


図 活動電位マップと疑似心電図波形